



新年のご挨拶 有松まちづくりの会 会長 中濱 豊

新年明けましておめでとうございます。

本年は巳年でございます。巳年の謂れを調べましたら、巳年は脱皮を繰り返して成長する蛇のように物事を新しく再生させたり復活させたりする年だそうです。

有松の町並みも再生や復元で更に美しく、江戸時代に英国の外交官が「日本一美しい町並み!」と感嘆した絶景に近づけていく年にしたいと思っています。

どうか皆様のお知恵とお力添えをよろしくお願いいたします。

本年が皆様とご家族にとって幸多い年となりますようお願いしております。



今月の花 葉牡丹

(花屋 Luore提供)

有松まちづくりの会役員会 (12月23日)

「有松を語ろう会」を受け、すぐ実施すべきものとして、有松でのイベント告知の掲示版を設置することにしました。あずまや・有松駅・絞会館・商工会・旧山田薬局に設置すべく関係者への働きかけをします。また、イベントの詳細を把握し共有するため、担当者のグループラインを作成し、町全体でバックアップできるようにします。会の運営資金については、絞りまつりへの出店も視野に検討することとしました。

長期的には、トイレの設置や会員の増強に粘り強くとりくんでいくことにしました。

第47回 全国町並みゼミ東京大会報告 (10月26日・27日)

東京墨田区京島の千葉大学墨田サテライトキャンパスで、全国から180名が参加して開かれた。有松からは中濱会長はじめ3名が参加された。

創立50周年の今年、基調講演の後「50周年記念トーク」が行われ、創立三団体：有松・妻籠宿・今井町の思いが話された。2日目は「制度」「防災」をテーマの分科会。

今年、重伝建制度制定50周年を迎える。これまで大きな成果をあげてきた反面、①範囲の対象が限定しがち、②重伝建地区になり切れないところが少なくない等の問題が提起され、これまでのあゆみを振り返り現在の課題に向き合う大会でもあった。

「町並みはみんなのもの」をスローガンに50年間活動してきたことを再確認することになった。タワーマンションでなく町並みこそが私たちのまちの未来を拓くのだという確信が得られた。これからの町並み保存は、より間口を広げ「歴史まちづくり」の視点が必要との声もあった。



有松コミセンまつり (11月23日24日) 於:有松コミセン(展示発表)・有松小体育館(舞台発表)

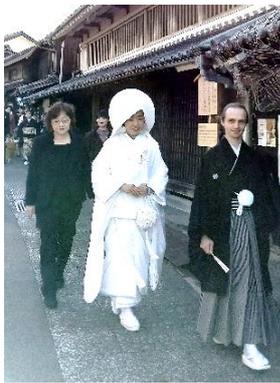
コミセンでは木彫り・俳句・絵手紙・絵画・水墨画・水彩画など多くの作品が展示され、日ごろの活動の成果が紹介されていた。有松あないびとの会のコーナーでは、会員が書かれた「よもやま話」を展示。現在201話とのこと。ありまつ公園ベンチ下に東海道53次が描かれていることの紹介もあった。見学者から「私が描いた」との声も聞かれた。



有松天満社で神前結婚式 (11月17日)

久しぶりの結婚式、しかも新郎はニュージーランドの方か。

早朝より文嶺講の皆さんは式場準備に大忙しです。また、竹田嘉兵衛商店では着付けが行われていました。有松絞りの白無垢をまとった新婦は輝きそのもの。絞りそのものの凹凸感と合わせて光沢ある生地は新婦を一層引き立てていました。新郎の紋付袴姿も板についていました。



①②

30分ほど新郎と新婦は東海道・踏切・参道を歩いて(写真①)社殿に到着です。どうしてこのようなことをするのか。亀垣宮司は「修行の一環です。苦勞して歩かれる姿を神様は見ています。また、参道に玉砂利が敷かれているのは、河原をイメージしてもらうため」と仰っていました。河原の水で体を清めることなのでしょう。

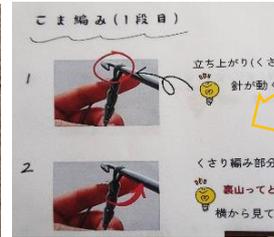
③

13時より挙式(写真②)。こまごまと作法手順の説明も行われていました。最後に三三九度、のち記念写真を撮って(写真③)結婚式は終了。多くの参列者に囲まれ、幸せいっぱいのお二人でした。



かぎ針編みでしおり作り (11月10日・17日) 於:六弦とコットン

コロナ禍以降、編み物ブームとか。講師は編み物作家で作業療法士の方。写真左の鉛筆しおりをかぎ針編みで作っていた。"編み物レシピ"(写真中)という写真付きの手順書が用意され初心者でも参加できる工夫がされていた。記者も初めての編み物に挑戦。くさり編みは何とか…次のこま編みが難しい。気づくと時間が経っていた。チラシの「没頭の時間を作るお手伝い」に納得。



有松町家ライブ ピアノ尺八INFINITY (11月24日) 於:棚橋家住宅

毎年恒例、癒しの音楽を奏するために有松へ。会場は参加者40名で一杯。演者2人とも洋楽・和楽の融合を試みる。その舞台として有松の町家はうってつけ。"ジュピター"の柔らかい音色が心地いい。嵐絞りの衣装もいい。初めての参加者も10名近く。地元で溶け込む演奏会だ。



武将隊 有松来訪 (11月28日)

今回有松に来てくださったのは、陣笠隊の信長・清正・十吾の御三人。12/15終了した"有松・熱田のまちめぐり"のPRの為。案内されたあないびとの会 鈴木照美さんは「喜んでいただきたいと三人の絵を描いてお迎えしました。ご案内して400年以上時代を遡った気分。クイズを出すなどで盛り上げることができ嬉しかったです。大変良い時間を過ごすことができました」と。

今年の"有松めぐり"は、熱田地区とのコラボでした。



有松しぼり体験（12月9日） 於:有松工芸

雪花絞り体験前に店主濱島正継氏の手順説明があった。絞りの歴史を交えた温かい語り口に参加者8名は引き込まれていた。体験が楽しくてしょうがないようで「折り目がうまくできない」と言いながらも手を休めることはない。染色液に浸した後の水洗いで色の変化に驚いていた。自身の作品の出来に皆満足の様子。



名古屋都市センター有松研修（11月26日） 於:moss Arimatsu(モスアリマツ)

名古屋のまちづくりで中心的な役割を果たしている都市センターが有松で研修会を行った。センター職員や賛助会員約20名が町歩きと講演に臨んだ。

町歩きでは建物や町並みへの関心が深く、的確な質問も少なくなかった。その後の講演の会場は古民家を改築したモスアリマツ。整備を手掛けた"ありまつ中心家守会社"（2018年発足のまちづくり会社）の共同代表 武馬淑恵さんから整備状況や地域活性化へのお話があった。温厚な語り口の中にまちづくりへの強い信念が垣間見られ、参加者の深いうなずきが印象的でした。



有松では地域活性のため古民家の利活用が進められている。

《レンタルスペース moss Arimatsu とは?》

明治初期の建築、絞り商の在庫置き場として使われていた離れの建物で老朽化著しく改築。各種補助金を活用して総事業費4000万円の多くを工面。2024年4月にオープンし、近隣の幼稚園のお母さんなど利用客も順調に伸びている。店舗が少ない西エリアに人の流れが生まれつつある。



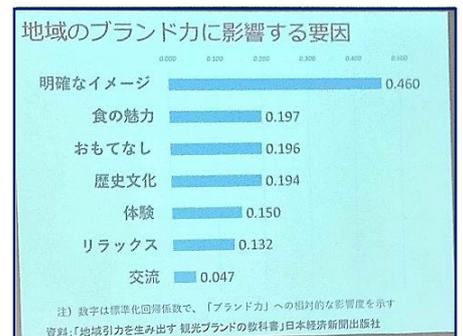
桜花学園 観光総合研究所主催 公開講座（11月28日） 於:ウインクあいち

会場には有松でまちづくりに関心を寄せる方々も散見され、熱心に受講されていました。有松が転換期にあることを物語っているのかもしれませんが。演目は2つ。まちの活性化へのヒントが得られたでしょうか。

講演①「観光客を引きつける地域のブランドづくり」

静岡県立大学教授 岩崎邦彦氏

マーケティングで地域を元気にしたい。そこから見えるのは、"強いブランドには、地域に人を惹きつける「引力」がある"ということ。従来、観光客を増やすには販売・売り込みの強化と考えられていたが、強い地域のブランドイメージを作れるかどうかが鍵。消費者の心の中に「これが一番」と思えるものがあれば、人はそれを選択する。その地域にしかないもの、そこでしかできないことを見つけたい。



講演②「星空のブランドから始まった 選ばれる街づくり」(株)阿智昼神観光局代表取締役 白澤裕次氏

昼神温泉や花桃で知られる阿智村を訪れるのは中京圏からの団体客が半数を占め、大きく減少傾向にあった。その改善として「日本一の星空」に焦点化した取り組みを始めた。結果、個人客や60歳以下の利用客の割合が増え、特産品の開発等地域の課題解決にも広がっていった。「天空の薬園 Night Tourナイトツアー」と称した「星空」イメージ戦略が効果をあげた。今後はリニア中央新幹線開通に向け南信州広域を対象とした施策を考案中とのこと。



会場の集会室は30数名の参加者で満席。長年のガイド活動で培われた分かりやすい語り口で、聴衆を魅了していた。講演内容は"桶狭間の戦いの概要"と"義元の本陣は何処か"。繰り返し話されていたのは、江戸初期までの資料が重要であり、しかも現地調査が不可欠であるということでした。



毎月第2日曜日無料ガイドツアーがあります。13時桶狭間古戦場公園に集合です。

連載 有松にお店を構えて⑧ 糸和

有松郵便局の向かい、旧スズサンに「糸和」(いとわ)が2024年10月11日Open、いつも入口が開いており店主の想いが感じられます。

▶ どうして有松にお店を構えることにしたのですか？

10年間、西町で「くくる」と言うお店をやっていました。今回、自分が生まれ育った東町にお店を構え、気持ちも新たに製品を通じて絞り、町、祭り等を地元の人、旅行者、海外の方に伝え、楽しくお話ができる場になればと想いお店を始めました。

▶ どのようなお店ですか？

天然素材・天然染料にこだわった温かみのあるお店です。店内の半分がショップ、半分が工房という有松では珍しい形態で、作る現場を見る楽しみも感じてもらえたらと考えています。

糸和のコンセプト 伝統的な絞りと現代の生活が調和することを目指して、地球と身体にやさしいものづくり。

自然からインスピレーションを受け、自由な感性と伝統的なデザインを融合させ次の100年を想い生み出される絞り。素材は布、革の天然の素材に絞りを施し、染色は藍染を中心に自然由来の染色にこだわった現代の生活に溶け込む絞りを表現しました。

糸和の理念を、ものづくりを通して見て触れて感じてください。

営業時間 9:30~17:00 定休日 火曜日・水曜日

催事・行事予定

- 1月12日(日) 17:00 有松天満社文嶺講総会 中町年行司 文嶺講
- 1月13日(月祝) 10:00 成人式 有松中学校 緑区役所(有松・桶狭間・南稜区政協力委員会)
- 1月14日(火) 8:00 東町秋葉社左義祭 東町秋葉講
- 9:00 左義長 有松天満社中広場 文嶺講
- 1月20日(月) 18:00 有松町並み相談会 コミセン
- 1月25日(土) 9:30 文化財防火デー防災訓練 絞会館 緑消防署
- 1月26日(日) 7:30 かえで道清掃 有松まちづくりの会
- 1月27日(月) 18:30 有松まちづくりの会役員会 コミセン

発行者 中濱 豊(有松まちづくりの会 会長)

編集者 加藤明美(有松まちづくりの会 広報部長)

pegasusb@mc.ccnw.ne.jp 取材・撮影 伊藤総俊

有松まちづくりの会はホームページを公開しています。「有松のまち」で検索。



《編集後記》

有松のまちでどのようなことが行われているのか？それらの紹介を通して、有松でのまちづくりの動きを今年も見つめていきたい。